

2017年度 三重教区「差別と人間を考える」協議会 公開研修会のご案内

昨年、「障害者差別解消法」「部落差別解消推進法」「ヘイトスピーチ解消法」が相次いで施行されました。また「LGBT」などジェンダーマイノリティに対する差別解消など、国や自治体、学校、職場などで人権啓発活動が推進されています。

教団、そして教区においては、これまで部落差別をはじめ、ハンセン病問題やジェンダー問題などを課題化してきましたが、差別問題が多岐にわたり複雑化する今日、それぞれの課題について表面的に知ることができても、真宗門徒としてそれらがなかなか「信心の課題」にまで深められてこないのが現状ではないでしょうか。

今、私たちは部落解放同盟(広島県連合会)から改めて『観経』の「是旃陀羅」問題を提起されています。それは経典に対する教学的な問題としてだけではなく、それを日ごろ読誦する僧侶として、また「現代の聖典」に学ぶ一人の真宗門徒として、現代社会における人権意識と感覚を問うものです。

さて、今から約85年前に『真宗』誌に「旃陀羅解につき布教使諸君に訴ふ」を寄稿した僧がいました。1921年、本山に「社会課」を設置した武内了温師です。

宗派の解放運動の先駆者である武内了温師の50回忌にあたり、生前中に交際のあった藤井慈等氏から当時のエピソードを交え、その足跡をとおして私たち一人ひとりが、自らの信仰課題として差別問題に向き合う基本姿勢を学ぶと同時に、当協議会が担い、果たしていくべき役割を明確にしていく第一歩にしたいと思い、下記のとおり公開研修会を開催します。

お誘い合わせてご参加くださいますようお願い申し上げます。



◇ 期 日 2017年10月18日(水)

日 程

14:00 受 付
14:30 開 会 (真宗宗歌、会長挨拶)
14:40 講 義
15:40 質 疑
16:00 閉 会 (恩徳讃)

◇ 会 場 三重同朋会館 3階講堂

◇ 講 師 藤井慈等氏 (南勢二組慶法寺住職)

◇ テーマ 「武内了温師の足跡に学ぶ」

参加費無料

どなたでもご参加できます。

主催 真宗大谷派三重教区「差別と人間を考える」協議会